

平成31年度 防府高等学校 学校運営協議会

平成31年度 防府高等学校 学校運営協議会 委員名簿	・・・	P. 1
第1回学校運営協議会 協議概要 (R1.7.5)	・・・	P. 2
第2回学校運営協議会 協議概要 (R1.11.14)	・・・	P. 3
第3回学校運営協議会 協議概要 (R2.2.20)	・・・	P. 4

平成31年度 防府高等学校 学校運営協議会 委員名簿

No.	所属	役職	氏名
1	山口大学	副学長	田中 和広
2	山口県立大学	副学長	田中 マキ子
3	山口県立総合医療センター	院長	武藤 正彦
4	山口大学大学院医学系研究科	教授	小林 誠
5	防府市立桑山中学校	校長	田中 敬
6	防府高等学校	P T A会長	吉村 茂
7	出雲地区社会福祉協議会	会長	津田 ます子
8	株式会社「おはな」	取締役	野村 新一郎
9	山口市立德地中学校	校長	青木 典生
10	防府高等学校佐波分校	P T A会長	山田 洋美
11	同窓会	副会長	松本 美和子
12	防府高等学校	校長	河村 隆

第1回学校運営協議会 協議概要 (R1.7.5)

1 学校運営協議会の制度及び運営について説明

- 学校運営協議会の設置が努力義務化 (H29.4 地教行法改正)
- 県内の小・中学校は100%設置、県立高等学校等は来年度までに全学校に設置予定

2 会長及び副会長を選出・説明及び承認

- 会長：山口大学副学長 田中和広 氏
- 副会長：山口県立大学副学長 田中マキ子 氏

3 学校運営方針について

- 教育方針・育てたい生徒像・重点目標・学校評価書について説明 → 承認

〔 Q：学校評価は誰が行うのか。
A：教職員、生徒、保護者の他、学校運営協議会委員が学校関係者評価委員として評価。 〕

4 年間計画・取組内容に対する提言・意見交換

[全体]

- 具体的な目標を掲げて取り組む方がよい。

[本校]

- 授業に位置付けて大学を訪問するなど、大学に来る機会を増やすとよい。
- 保護者に対しても、進路やキャリア教育について説明してほしい。
- 県内外を問わず、希望する進路の実現に向けて、さらに頑張らせてほしい。
- 地域への宣伝、地域との連携による取組の状況はどうか。
→ 看護科生徒による医療施設の行事への参加、家庭科の授業における保育実習、地域のボランティア活動への参加など
- 教員養成系への進路を考える機会として、中学校での学習ボランティアを積極的に活用するとよい。
- 同窓会との連携を取りながら進めることも大切である。
- 地元で活躍する人材の育成と、世界に羽ばたく人材の育成の両方の視点を持ちながら進めていく必要がある。

[分校]

- 「徳地」の伝統・文化を学ぶ、「徳地」の自然に親しむ教育活動に、主体的に一步踏み込んで取り組めるとよいのではないか。
【例1】地元のお祭りに参加 → お祭りのエピソードをひもとく調べ学習をして、小・中学校で発表
【例2】文化祭バザーに地域の人が参加 → 地域との交流を深める取組に
【例3】とくぢ夏祭りに書道パフォーマンスで参加 → 徳地和紙を作るところから参加
- 地域づくりを進めていく「求心力」になってほしい。5つの地域がなかなか1つになって地域づくりを進められないという課題を抱えている。
- 佐波分校に行ったら頑張れば夢に近づけるように、次のステップにつながる環境を残してほしい。

5 まとめ

- もっと話し合うこと、大学と学生、地域と共にもっと出ていくことが大切。グローバルに考えながら、グローバルに考えること、お互いがふれあう機会と防府市の課題についても一緒に考えていくことが大切。
- 材料はたくさんあり、どう教育として見せていくかが大切。教員の力量が問われており、力をかけず、工夫の仕方に時間をかけずに取り組んで行くことが必要。

第2回学校運営協議会 協議概要 (R1. 11. 14)

1 令和元年度前期の取組について説明

- 本校・分校それぞれのテーマに基づく様々な取組の内、新たな取組について説明

[本校]

- ・ 医師や看護師による地域医療担い手育成セミナーについて、シリーズで4回実施。
- ・ 大学のオープンキャンパスツアーについて、東京大学、広島大学でも実施。
- ・ 家庭科の授業において、地域の家庭教育支援チーム等との連携により「乳幼児とのふれあい体験学習」を2年普通科6クラスで実施。

[分校]

- ・ 佐波分校主催の「劇団による演劇鑑賞会」を、地元小学生や地域の方々も参加して実施。
- ・ 性教育講座として、地域の家庭教育支援チーム等との連携により「乳幼児とのふれあい体験学習」を2年生1クラスで実施。 等

2 取組内容に対する提言・意見交換

[全体]

- 乳幼児ふれあい体験学習について
 - ・ 県立大学には看護系のボランティア部があるので活用するとよい。
 - ・ 徳地地区には母親クラブもあるし、母子推進委員がおられるので利用してもらおうとよい。

[本校]

- Q 大学生の就職先決定には、親の影響が60%程度あるようだが、高校生はどうか。
→ 生徒自身で考えているが、決定には親の希望を反映させている。
- 小学校の教員採用試験の倍率が2倍と低いが、教育学部で採用試験を受験しない者がいる。大学卒業後のことを具体的にイメージできるような、高校でのキャリア教育が大切である。
- 就職においては、親も県内企業を知らないし、情報を得ていない。
- 昔ほど外へ出ていかない傾向がある。一步上を目指させるべきではないか。
- 地域医療担い手育成セミナーについて、大学ももっと努力しないといけない。出前講義を利用してよいし、医学部医学科訪問を継続させるには、内部体制づくりを充実させていくとよい。医学部医学科体験を中・高が一緒に実施するのはどうか。他校で実施しているところがあり成果も上がっている。

[分校]

- 「高校生なら何ができるか」という視点を持ち、高校生ならではの活動が必要である。例えば、地域行事においても、参加する側から運営する側に入ったり、企画を一緒に考えたりすることができるかといえるのではないかとよい。
- 高校ならではの一步踏み込んだ内容に取り組むことで、ライフデザインを考える契機になるとよい。
- 「東大寺サミット」や「川まちづくり」といった取組に、高校生の意見も取り入れるような仕組みがあるとよい。
- ネットワークの強化を図るには、小・中学校にあるコミュニティ・ルームのようにプラットホームとなるものが必要ではないか。例えば、そこで様々な活動に関する会議が開かれれば、生徒も参加しやすくなる。
- プラットホームを継続的、計画的に利用してもらえば、学校としても教科学習にも活用しやすくなる。

第3回学校運営協議会 協議概要 (R2. 2. 20)

1 講話 「コミュニティ・スクールについて」

講師：兵庫教育大学教職大学院 教授 小西 哲也

《講師について》

- 今年度から2年間、本校の井村教頭が、兵庫教育大学教職大学院において研修する中で、防府高校におけるコミュニティ・スクールの進め方について研究している。
- 小西教授はその指導担当であり、コミュニティ・スクールについて、本県はもとより、全国での普及に尽力しておられる。

《講話のポイント：コミュニティ・スクールの必要性と役割》

- 今日の学校教育における諸課題は、子どもたちを取り巻く環境が大きく、急速に変化しており、学校だけでどうにかできるものではなくなっている。
- 地域を担う人材育成が大きな課題となっている今日、子どもたちの進路先が県内・県外にかかわらず、自分たちの生まれ育った地域の実情を知っておく必要がある。
- 人生100年時代と言われる中、学校が生涯教育の場としての役割も期待されており、大人が学ぶ姿をみて、子どもたちは地域に貢献しようと思ひ、地域の大人のようになりたいと思っている。(本県の全公立小・中学校対象のアンケート調査結果から)
- コミュニティ・スクールの仕組みを活用することが、「社会に開かれた教育課程」の実現につながる。

2 令和元年度後期の取組について

- 本校で行われている出前講義が、生徒にとってどのように捉えられているか、進路選択にどのように生きているか分析をされてはどうか。
→ 現在は、感想文を書かせているので、それぞれの生徒についての様子は分かるが、定量的な分析が可能かどうか、検討してみたい。
- 分校で生徒が考え実践した、バス停に自分たちが作った座布団とテーブルセンターを設置した取組は知らない人が多い。もっと地域に情報を流すとよい。
- 本分校とも、いろいろな取組をもっとホームページで発信する方がよい。子どもたちはよく見ているので、ぜひともホームページを活用していただきたい。

3 令和元年度学校運営の評価について

- 図書アンケート結果について、図書貸出数の減少は、本離れが進んでいることは言われるが、スマホで電子書籍を読んでいる生徒もいるのではないか。そうしたことも踏まえた質問内容にしたらいのではないか。
- 大学では電子化が進み、タブレットの中にすべてを入れる時代で、本を捨てる方向にあり、学生からは高校でも結構使っているような話を聞いている。
→ 私学は結構進んでいる話を聞くが、公立高校ではまだまだである。
→ 小・中学校ではタブレットを使うこともあるが、そんなに進んでいるわけではない。
- アンケート結果について、可能な範囲で、委員だけでも見ることができるようデータづくりと資料提供を検討していただきたい。

4 令和2年度の学校運営方針について

- 防府高校の特色は何か。魅力づくりはどう進めるのか。医療関係の強み、地元大学進学の高さを生かすのか。そうしたことを考えるためには、まずは学校の現状(入学生徒の状況、学力や進路等の状況、中学生も含めた生徒やその保護者が本校に期待していること等)について、推移も踏まえながら分析をするべきである。ぜひとも、次はそうした分析資料をもとに意見交換や協議をしたい。
- 来年度の学校運営方針について、方向性は了解である。

